



色の軌跡 V



「は、早くしててください！
誰か帰ってきてください！
見られたら……」

ドキ

ドキ







「あっ……んん♡
どれだけ出したんですか
ほんとにもう♡」

イッ

HOT

「教え子にこんな
不埒な真似をして
いいんですか？」

「いえ、今なら
私も貴方の気持ち
がわかるような……」



んっ♡

あ♡

ふっ♡

はあ♡

あ♡

はあ

アッ

ズッ

ズッ



あ

っ♡

ああ

あ♡

ゴッゴッ

ブルブル

「なんででしょう？この感覚……
不埒なことをされたのに
嫌ではありません」

「貴方……
だからでしょうか……？」

ふふふ

うわ

トロキ



「久しぶりだからか
緊張しちゃいますね♡」

ドキ

ドキ







アハハ

アハハ

ああ

ああ

ああ

ああ

ああ

アハハ

アハハ

アハハ

「あの、私……！」

「……あつ……
もう少しだけ
甘えてもいいですか？」

エロ





「ふふっ、どうしました？
私はいつでもいいんですよ♡」

くわっ





「既成事実………という
ものでしょうか?」

「ラブ、冗談です
でも教官なら
ここまでしておいて
終わり………なんてこと
ないですよね♡」





「このようなことは
初めてです……」

カアッ

「そうまでして見せよう
見られると
恥ずかしいですね」



「…っ痛」

「はい、いえ、大丈夫です
訓練などとは別の痛みだったので
少し不意をつかれただけです」

っっ



(痛みが引いたと思ったたら
今度は知らない感覚
頭がフワフワして
溶けていくみたいなの……)

アッ

アッ

ビッ

んっ♡

はぁん♡

はぁ

はぁん♡

あっ♡



はあ♡

ああ

ああ

ああ

ああ♡

あん♡

♡

エロエ

エロエ

エロ

エロ

エロ

「申し訳ありません
お見苦しい姿を……
えっ
それが良いのですか？」

「私にはまだまだまだ経験が
足りないようです
よければまた
お相手願えますか？」

コア

トク



「も、もう！
お尻大きいの気にしてるんだから
あんまり言わないでよね
……はあ
身長や胸は育たなかったのに
なんでお尻だけ……」

「……それがいいの？
……ならいいかな
……いいのかな？」

むっ



はぁ

ん

あ

あ

ふらん

あ

ッ

ッ

ッ

ッ



あああ
ああん

アハハ

カハハ



「いっぱい出したね
ooo...あつ
溢れてきもちやった♡」

あつあつ
ムムム

「こういうことでは
そなたにやられればなしだったからな
私なりに勉強してきたのだ」

「今日は私に任せてもらおう」



(口に含むとまた違った感触だな
硬いのに柔らかいような
……少しアンモニアの匂いがある)

千景
チュパ

ジュワッ

(自分なりに
一人で練習してはいたが
上手くできているだろうか?)

ムン
ムン



(射精したというこどは
上手くできたと思っ
てよいのだろうか?)

ほら

ムラァー♥

おは

「ん、またやっ
て欲しい?
……そうか、
そなたが喜ん
でくれるなら
私も嬉しい」



「少し大胆でしようか？」

「久しぶりで
舞い上がっているのかも
しれませんね」







ああああ♡

ニッ

グッ

グッ



「すごいたくさん……！」

「嬉しいですよ私でこんなに感じてくれたんだ……っで」

ニッコ

HOT

HOT



「わ、私とですか!!」

「その、
「こちらでよければ……」

しいっ





ふん

ふん
ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん
ふん

ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

「……あつー！
お尻の中見られたら
恥ずかしいです」

「たくさん出しましたね」

んふー

ふん

ん
ん
ん
ん





「二人で気持ちいいこと
しよっよお！」

くぼあ♡

「ポケっとして
どうしたのさ
お兄さん」





イ

ク

カ

カ

ク

カ



エ

エ



「お兄さん
なかなかやるじゃんか」

「なになに
もつかいやるっての？
あはは、おもしろいねえ！」

ゴト

ゴウ
ゴウ









































































































































































「たくさん出しましたね」

はぁ

はぁ

トーン



















「おしっこするとこ見たいとか
ドン引きなんだけど」

(そう言いながら
見せてるあたしも
なんなのよ)

ジワッ
ジワッ
ジワッ





「排尿するところが
見たいだなんて
貴方は本当に変態ですね」

ア
ン
ア
ン
ア
ン



「あうう…
恥ずかしいけど
好きな人になら…」

クッ
クッ
クッ

「ごういっした趣向が
お好きな方もいるとは
知っていましたが
教官がそうだったなんて」

ビョ
オ
オ
オ
オ
オ

「あら、ほんとに
大きくしてるんですね」



「このような姿
本当に見たいのですか？」

アハハ



「相変わらず
これが見たいんだ!」

「うう…
恥ずかしいけど
いつもがんばって
これで元気が出るなら」

チロ

チロロロ



（一人でしながら
放尿するところが
見たいなどと……）

（だがそなたに
言われると私は……）

びりびり

びびり



「これでよく見えますか？」

「うう……
恥ずかしい……です」

キキキキ
キキキキ





「なに？
こういうのが好きなの？
いい趣味してるねえ」

ダョロロロ

























ゴブリン

おほおほ
おほおほ
おほおほ

ゴブリン

ゴブリン

ゴブリン



んっ♡

あっ♡

ふっ♡

はあ♡

あん♡

はあ

アッ

ズッ

ズッ



ああ

ああ

ああ

♡

♡

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ





ブルブル

ブルブル

ブルブル

ブルブル

あ

あ

あ

あ

あ



かり







アッ

アッ

ピッ

あ

あ

あ

はぁ

はぁ

はぁ



はぁ♡

あぁ♡

ん♡

エ

ム



はぁ

あーん♡

あーん♡

あーん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡



あああ

あああ

アハハ

アハハハ









あぁ
あぁ
あぁ

ニ

ニ

あぁ

あぁ

ニ





あはあ
あぁ

ドグッ

ム

ム

ム

ム



アッ♡

もっ♡

はぁ

アッ♡

はぁ♡

ん♡

ピッ
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ





































































(うっっ！)
想像以上にひどい味だ
本当にみんなこんなことを
するものなのか？

(うっっ)
まずい…吐き気が…

ふっ

ふー









「あの、やっぱり
恥ずかしいからやめませんか？」

(だめっ
これ以上我慢できない！
おなら勝手に出ちゃってる)





「あつ……あああ……
出ちやった……」

「あの、やっぱり
恥ずかしいからやめませんか？」

(だめっ
これ以上我慢できない！
おなら勝手に出ちゃってる)





「あつ……あああ……
出ちやった……」



「く、臭い……ですか？
当たり前前のことを
いちいち報告しないでください」

グウウ〜

グウ



「こんなものを見て
何が楽しいのか
まったく理解不能です」

アホ

ムニムニ

ムニムニ



「く、臭い……ですか？
当たり前のこと
いちいち報告しないでくださーん」

グウウウ
グッ



「こんなものを見て
何が楽しいのか
まったく理解不能です」

ビッ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ

「あの…
臭いですよね？」

「あっ!!
もうすぐ出ます」

ひんひん

ズズ





(は、恥ずかしい……
私のうんちするとこころも
うんちしてる顔も
見られちゃってます)

んっ

ふっ

三千

ムニャ

三千



「あの…
臭いですよね？」

「あっ!!
もうすぐ出ます」

い
い
い

い
い



(は、恥ずかしい……
私のうんちするとこころも
うんちしてる顔も
見られちゃってます)

ふっ

んっ

三千

ムニャ

三千



「あぁっ！
これ以上はもう……！」

(さすがにこれは
恥ずかしいですね)

んんん

ニニニ
ニニニ
ニニニ





「あぁっ！
これ以上はもう……！」

(さすがにこれは
恥ずかしいですね)

んんん

んんん
んんん
んんん





「も、もう我慢できない!!!
……なっ!!
匂いを嗅がないで下さい!」

グ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

ピ
ピ
ピ



「み、見ないで！」

「これほどの辱めは
生まれて初めてですー！」

ムニムニ

ムニムニ

ムニムニ

「も、もう我慢できな〜い……!!
……なっ!!
匂いを嗅がないで下さい!!」

グ
ハ
ハ
ハ
ハ

ピ
ピ
ピ





「み、見ないで！」

「これほどの辱めは
生まれて初めてですー！」

ムニムニ
ムニムニ

ムニムニ

ムニムニ

「だ、ダメ！
句、かがれたら
恥、ずかしいよ」

グスゥ〜

グビッ



(見られてるのに
いっぱい出ちやうよお...ああ)

4100

グニャッ
グニャッ

グニャッ

「だ、ダメ！
句かがいたら
恥ずかしいよ」

グスゥ〜

グスゥ



(見られてるのに いったい出ちやうよお...ああ)

1004100

アキアキ

アキアキ



「久しぶりに会ったのに
こんなことを……」

イッ
イッ
イッ

イッ
イッ



「あつ、くうう！
私の恥ずかしがる顔が
そんなにいいのか
そなたは！」

アッ
アッ

グハッ

「久しぶりに会ったというのに
いきなりですか？」

「すげ〜く恥ずかしいんですよ
これ」

プん

ズツ





(見られてるのに
長いの出ちやいます)

ふっ
ふっ

ふん
ふん

三千丸

「久しぶりに会ったというのに
いきなりですか？」

「すげ〜く恥ずかしいんですよ
これ」

プん

ズツ





(よりによって
こんなときに
下痢してるなんて……)

ふっ
ふっ

はっ
はっ

はっ
はっ
はっ
はっ



「お尻をキレイにするとこころを
見たいのですか？」

イクイク



「ああっ!
いっばい出てしまいます」

下流





「もう、漏れ……」

イタタタ

ビク

「ああっ！
いっばい出てしまいます」

あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ





「もう、漏れ……」

イタタタ

「ああっ!
いっばい出てしまいます」





「へえ…
いいよ！
その挑発乗ったげる」

グ
グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ
グ



ふっふ

「んっふっ!
あははは!!
さすがにちよっと
恥ずかしいかな?」

ニクニク

ニク

ニクニク



















































































































「新しい環境で
忙しいのはわかるが
風呂には
ちゃんと入ったらどうだ？」

モロモロ

「見るがよい
こんなに汚れが溜まっているぞ」





「……ふう
これでキレイになったな」







ジュッ
ジュッ

ジュッジュッ
ジュッジュッジュッ
ジュッジュッジュッジュッ

ジュッ

ジュッ

ジュッ











































































